

■徳富蘆花(建次郎) 小説家。「不如帰」で兄蘇峰から自立、半農生活で「みづのたはこと」を著し、膨大な自伝を遺した。

とくとみろか

明治維新・1868= 肥後国水俣で、惣庄屋兼代官の家に猪一郎(蘇峰)の弟に生まれる。

初の日刊新聞1870= 2歳: 熊本藩庁に出仕する父に従い、熊本に移住、

明治6年政変 1873= 5歳:

佐賀の乱・1874= 6歳: 本山小学校に入学、

近代化の空気の中で育ち、

西南戦争・1877= 9歳:

大久保暗殺・1878=10歳: 兄猪一郎に連れられ、京都同志社に入学、

.....1880=12歳: 中退して帰郷し、熊本共立学舎に入る。

明治14年政変1881=13歳:

新体詩抄・1882=14歳: 兄猪一郎の設立した大江義塾に入る。

内閣発足・1885=17歳: 受洗し、伝道に従事。蘆花の号を使い始める。

帝国大学始・1886=18歳: 同志社に復学したが、

国民之友始・1887=19歳: 新島襄の義姪との恋を反対され、精神的・経済的行き詰まりから遺書を置いて、鹿児島に出奔。

初の対等条約1888=20歳: 熊本に戻り、熊本英学校の教壇に立った後、

帝国憲法発布1889=21歳: 上京して、兄蘇峰の経営する民友社に入り、人物伝を刊行、

帝国議会始・1890=22歳: 国民新聞担当となり、翻訳や種々の文章を書くうち、

のちに「自然と人生」などにまとめられる自然描写の小品に本領を見いだし、

郡司千島探検1893=25歳: 東京周辺・関東一帯の自然訪ねる旅行をし始め、

日清戦争始・1894=26歳: 父より財産分与、原田愛子と結婚。稿料も受けるようになる。

日清戦争終・1895=27歳:

子規句歌革新1898=30歳: \*翌年にかけて「不如帰」を連載、小説家として認められ、

ピア/国産化・1900=32歳: 「不如帰」刊行しベストセラー。「自然と人生」も刊行して人気作家となり、精神的・経済的に兄から自立。

田中正造直訴1901=33歳: 続く「思出の記」の刊行を機に、民友社と決別し、

日比谷公園・1903=35歳: \*「黒潮」の第1編を自費出版、「蘇峰家兄に与ふる書」を掲載し、蘇峰と決別する一方、独自の自然観・社会観を根底に置いた創作は、木下尚江らに影響を与えた。

日露戦争始・1904=36歳: 内的苦悩のため執筆せず、

日露戦争終・1905=37歳: 富士山に登って人事不省となり、心的革命を意識。兄と和解。

満鉄発足・1906=38歳: パレスティナ順礼の旅に出て、帰途トルストイを訪問。

韓国反日暴動1907=39歳: 東京府下千歳村粕谷(世田谷区粕谷)に移転、半農生活を開始。

伊藤博文暗殺1909=41歳: 小笠原善平のノートにもとづいた「寄生木」を書いた。

大逆事件判決1911=43歳: 大逆事件に衝撃受け、第一高等学校で「謀叛論」を講演、政府の弾圧を批判。

明治天皇没・1912=44歳:

大正政変・1913=45歳: \*田園での求道生活の記録「みづのたはこと」刊行。

第一次大戦始1914=46歳: 真なる自己を求めて、まず「黒い眼と茶色の目」を書き、

本格政党内閣1918=50歳: さらに生活即芸術という信条の実践として「新春」、

原敬首相暗殺1921=53歳: 「日本から日本へ」2巻を経て、

水平社結成・1922=54歳:

護憲三派圧勝1924=56歳: 膨大な自伝「富士」執筆開始、

治安維持法・1925=57歳: 4巻を書き、刊行開始。死去した叔母矢島棋子への態度が話題になる。

金融恐慌・1927=59歳: 心臓発作で倒れ、伊香保に赴き静養、駆けつけた兄蘇峰と会った直後に、没した。